

2012年12月18日

各 位

双日株式会社
株式会社児湯食鳥

ベトナムにてブロイラー事業進出への検討を開始
～拡大する需要に、日本の技術・ノウハウで対応します～

双日株式会社と、国内大手ブロイラーインテグレーターである(株)児湯食鳥（本社：宮崎県川南町、社長：渡部博行）は、ユニテック・エンタープライズ社（本社：ベトナム ドンナイ省、社長：JAMES HIEU NHON KHUU）と組んで、ベトナムでブロイラー養鶏事業に進出を前提とした事業検証を行う事で合意しました。ベトナムにおいての食肉市場では、消費の約8割を豚肉が占めていますが、人口増、食肉消費の拡大に対応するため、政府方針（マスタープラン）により、鶏肉の増産が計画されており、養鶏生産羽数は2010年の2億2千万羽から2020年に4億5千万羽へと倍増する見込みとなっております。

本事業は、まず、ホーチミン近郊にて試験規模によるヒナ生産から養鶏・加工・販売を通して事業性の検証を行った後、2013年度中を目途に合弁会社を設立し、当面1,200万羽/年の生産・販売とし、将来的には3,000万羽～5,000万羽規模まで、ベトナムで拡大していく予定となります。

双日は、ベトナム最大手の製粉会社インタフラワーベトナム社(IFV社)に20%出資し製粉事業に進出、同社のもつASEAN最大級の穀物専用港を物流拠点とし、2013年2月にはロンアン省にて独自の技術をもつ配合飼料会社である双日協同飼料(51%出資)の生産開始を予定するなど、飼料畜産サプライチェーンの構築を進めております。また、ベトナム最大級の食品卸企業のフン・トゥイ・マニユファクチャー・サービス・トレーディング社(HT社)を本年度に連結子会社化(51%)し、同国の旺盛な消費意欲に対応しています。今回参入するブロイラー養鶏事業は、未進出であった畜産分野への進出となり、先行事業との相乗効果を期待しています。将来的には双日協同飼料より、養鶏の生産効率を向上させる高品質の配合飼料を供給することを検討しております。

児湯食鳥は日本国内で約 10%のシェアを持ち、生産から製造・販売までの高度な養鶏事業経営ノウハウを活用して、鶏肉一貫事業を展開しています。将来の伸び行く市場を見据えて、日本の畜産企業ではいち早く東南アジア進出を決定しました。

ユニテック・エンタープライズ社は、2003年より双日が60%出資する同国ドンナイ省 LOTECO 工業団地にて食鳥処理事業に進出、系列農場を保有し養鶏も手掛けるとともに、種鶏農場（ヒナ生産農場）の運営にも着手している他、ベトナム国内向けに鶏肉加工品販売も展開しています。また、同国最大規模の食肉処理場（提示処理能力4万羽/日）を保有しています。

双日と児湯食鳥は、ベトナムでの事業展開を基にアジア各国での展開も視野に入れ、双日グループのもつグローバルネットワーク、児湯食鳥グループの生産から販売における事業ノウハウを導入し、同分野でアジア No.1 を目指します。

以上

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03-6871-3404